

研修医だより

● 頭頸部・耳鼻咽喉科研修 2021.01.22 ▶ 研修医 2 年目 S.O

こんにちは。研修医 2 年の S.O. です。新型コロナ感染症はなかなか収束せず、病院実習や見学も満足にできていないのかなと思います。当院でも、感染拡大防止のため、歓迎会や送別会は今年の頭以降中止になったまま 1 年が経過しています。閉塞感が漂っていますが、少しでも状況が好転するように、日々の業務や感染対策を頑張っているところです。

さて、今回は私が昨年 11 月に研修しました、頭頸部・耳鼻咽喉科研修について書きたいと思います。

当院の耳鼻科は旭川医科大学の関連病院であり、オホーツク圏で耳鼻科疾患の入院手術の可能な数少ない医療機関となっています。そのため、頭頸部癌の手術、放射線化学療法の必要な患者さんが多く、大学の耳鼻科に近い印象を受けました。加えて、突発性難聴、扁桃炎など、common disease と呼ばれる疾患も多く経験することができます。

私は、救急外来に来るめまいや鼻出血の対応の仕方を学ぶため、麻酔科の気道管理につながる解剖を学ぶため、耳鼻科領域の手術を学ぶため、という 3 つの目的で研修させていただきました。

研修期間中は、救急外来でよく見るめまいの鑑別の仕方、耳鼻の見方など、耳鼻医的視点からたくさんの知識を授けていただきました。手術の前日には、手術書と動画を照らし合わせながら、手術の流れを予習させていただいたこともあり、手術の流れの理解がかなり深まりました。麻酔管理をする上でも、耳鼻科領域の手術は気道トラブルとの隣り合わせであり、どのような麻酔管理をすべきか、とても参考になったと思います。

また、スピーチカニューレの交換、針生検、PICC カテーテル挿入など、数多く実践もさせていただきました。1 ヶ月の研修中のすべての手術の助手にも入らせていただき、扁桃の摘出は教えていただきながら執刀もさせていただきました。

今までブラックボックスだった、頭頸部領域がたった 1 ヶ月の研修期間ではありましたが、かなり深く学べたと思っています。何より、麻酔科志望の私にも、耳鼻科志望の研修医並の経験をさせていただいた上級医の皆さんに感謝しかありません。耳鼻科志望であってもなくても、耳鼻科は研修のおすすめの科の一つなのかなと個人的には思っています。

今年度から導入された「研修医だより」ですが、ありがたいことにいろいろな記事を採用していただきました（主に研修のことばかりで、北見 life についてはあまり書いていませんが）。次回は私の最後の記事として、2 年間で振り返って、当院で研修してよかったことと、研修医でやっておけばよかったなと個人的に思うことを書けたらと思います（あくまで、一個人としての意見として読んでいただければと思います。）

